

# -地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 2

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

## 充実する本学の地域連携活動

本学では、新たな社会連携の活動が次々に発生し、また継続活動も活発に行われている。以下に、その中の際立った活動を紹介する。

**薬学部**：同学部では、西宮市薬剤師会と共同で 5 月より本学薬学部浜甲子園キャンパスで「健康講演会及びおクスリ相談会」を、基本的に毎月第 2・第 4 土曜日の午後に開催している。5 月 20 日の第 1 回の際には、本学食物栄養学科の雨海教授による「加齢を測る—フレイルティと栄養」と題する講演会が行われた。その後、当市薬剤師会の薬剤師による「おクスリ相談会」を実施、隣接会場では血圧測定、骨格筋量や体脂肪量などの測定も行われた。

薬学部 HP  
より

**看護学部**：同学部では、西宮市及び同市の医師会・歯科医師会・薬剤師会、そして本学の後援を得て、兵庫県看護師協会と共同で、ららぽーと甲子園の協力も得て、「まちの保健室」を 7 月より同ショッピングセンターで毎月第 1 水曜の午前 10 時～午後 1 時まで開催している。第 1 回の 7 月 5 日には、86 名の相談者が来訪した。

看護学部  
HP より

**健康・スポーツ科学部**：同学部が運営する『スポーツクラブ武庫女』は、7 月下旬に子ども向けの「からだで覚える英語のうた」や「水泳教室」を実施した。前者は、アメリカの小学校で子どもが学習する方法で歌やゲームを楽しく行い、元気にからだを動かしながら日常会話に馴染む機会を提供した。

本学 HP  
より

**オープンカレッジ**：オープンカレッジでは、8 月 21～23 日に「親子でかけっこ必勝法～ダイナミックな走り運動会のヒーローに！～」と題する夏の特別講演を実施した。21 日には五輪メダリストの朝原宣治氏をお招きし、「早くなるために必要なこと」などについて話をしてもらった。また、実践編では本学の陸上部強化コーチの上坂麻世氏が、身体の使い方や足が早くなるためのトレーニングなどを指導した。

本学 HP  
より

**生活環境学科**：同学科の鎌田ゼミでは、芦屋浜高層住宅 (ASTM) の団地自治会や兵庫県住宅供給公社等と協力して集会所の一つを改修し、そこで、閉園した幼稚園から寄贈された絵本を活用した活動を行うなど、住民が自由に集える場とする「またあしたプロジェクト」活動を開始した。更に運営に関するアイ

デア提供やイベントへの参加で協力している。



生活環境  
学科鎌田  
研究室の  
facebook  
より

また、7月29日の浜甲子園団地の夏祭りを盛り上げる一環で、同学科の水野ゼミや森本ゼミの学生が中心になった「キャンドル・ナイト in 浜甲」が同団地のブルーバールなどをライトアップした。同企画は今年で6回目になる。

**附属図書館**：本学附属図書館は、学生・一般市民を対象に、6月17日に直木賞や泉鏡花文学賞等多数の受賞歴のある作家の桐野夏生氏をお招きして第4回「作家と語る」を開催した。当日は、約600名の参加があった。

「作家と語る」は、本学の学生1万人を対象とした「読書に関わるアンケート」で学生に支持が高かった女性作家を招き、学生が作家に作品を読んで感じたことや質問を直接ぶつけるイベントである。今回は、桐野作品の読書会を事前に関き、参加学生が作品に心動かされた部分の一文を切り出し、何故その部分に心が動かされたのかを冊子にまとめた中から、6名の学生が壇上に上がり、桐野氏と直接に対談した。桐野氏からは、参加学生の作品への思いや質問に対して、「作品の中で色々な女性の生き方、生き辛さを表現し、それが伝わっているとわかってうれしい」、「小説では人物を戯画化して表現し、未知の体験をしてもらう実験的なこともしている」などの話しがあった。また会場からの「小説を書くとは?」という質問に対しては、「生きている現実とは違う、もうひとつの世界を構築すること。その世界を強固で魅力的にしたい」と創作の姿勢を語った。



本学 HP より  
学生達と応答  
する桐野氏  
(左)  
右は進行役の  
フリーアナウ  
ンサー塩田え  
み氏 (本学卒  
業生)

**食物栄養学科**：同学科のブラウンライスボランティアのメンバーの学生が、大丸梅田店とのコラボ企画「Green Lover」に参加した。女性が輝く要素を「緑色（グリーン）」と位置づけ、旬の栄養をより美味しく意識しながら摂取できるように、新たなデパ地下商品を開発した。学生38人から提案された103件の中から、学内と大丸梅田店の選考を経て、17の商品開発が決定された。それらの新緑の惣菜やスイーツ類は、5月に開催された大丸梅田店地下でのイベントで販売された。



食物栄養  
学科 HP  
より

また、「和食しゃぶしゃぶかごの屋」と同学科学生とが共同で企画開発した「秋の実りデザート」が全国のかごの屋で8月末から約1カ月間提供された。

**英語文化学科**：同学科では、関西学院大学教育学部と共同で公益財団法人西宮市国際交流協会と協力し、西宮市内の公立小・中学校に通う外国人の子どもたちの学習支援を行う事業『ふでばこ』を9月スタートさせた。日本語の習得が十分でなかったり、母国と日本の学習内容の違いがあったりして、授業が分からず学習につまずいている児童・生徒のための学習支援を、ボランティアの学生が行う。

日時：第2・第4土曜日の10時～12時(本年中)

場所：大学交流センター(ACTA 西宮東館6階)

対象：西宮市内の公立小・中学校に通う児童・生徒

問い合わせ先：公益財団法人 西宮市国際交流協会

電話：0798-32-8680(9時45分～18時、火曜・祝日休)

**教育学科**：同学科の金子健治ゼミ、藤本勇二ゼミの学生が、青少年のための科学の祭典・神戸会場実行委員会が主催し、(公財)日本科学技術振興財団・科学技術館、(公財)ひょうご科学技術協会が共催して毎年開催されている、体験型の科学イベント「青少年のための科学の祭典」(8月26、27日)に参加して、子供たちが身近にある科学の不思議や面白さに触れるための指導をした。

## 提携が拡大する自治体等との連携

**国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所**：本学は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（大阪府茨木市）と8月1日に連携・協力に関する協定を締結した。本協定は、双方の研究開発成果の最大化を図り、革新的な創薬の実現や科学技術の発展・継承に寄与することを目的としている。

**兵庫県丹波市**：本学の校祖公江喜市郎先生の出身地丹波市と本学は、10月10日に「地域づくりに関すること」、「教育・文化の振興に関すること」、「人材育成に関すること」、「その他両者が協議して必要と認める事項に関すること」について、包括連携協定を締結した。都市部とは異なるフィールドが得られることで、今後の活動が期待される。



教育研究社会連携推進室撮影

**大阪府豊能町**：本年4月27日に締結した豊能町との「健康まちづくり」に関する包括連携協定に基づき、6月18日には健康・スポーツ科学科の新井講師が「歩き方」に関する講演を行った。



本学HPより

**兵庫県**：本学と兵庫県企画県民部地域創生局とは、11月にも「地域創生に関する包括連携協定締結」に向けて現在調整中である。連携内容としては、次世代の人材育成、地域活性化、雇用創出、産業・科学技術の振興、芸術・文化・スポーツの発展、学術・研究・広報に関することである。

## 地域活性化に関する懇談会を実施

当推進室では本年9月22日に「地域社会のニーズを聴く会」を改めた「地域活性化に関する懇談会」を開催した。西宮市、西宮商工会議所、尼崎市商工会議所、UR都市機構、兵庫県住宅供給公社、まちなね浜甲子園事務局の方々と当推進室専門委員及び地域戦略部会メンバーとの意見交換を行った。概要は以下の通りである。

先ず本学から、諸連携活動の説明の後、外部参加者からの要望を聴いた。

**[西宮市]**：文教住宅都市を謳っているの、今後も大学が活動しやすい環境を作っていきたい。

**[西宮商工会議所]**：学生の地元就職を推進したい。

**[尼崎商工会議所]**：産業面・観光面を視野に入れながら尼崎の名産を作りたいので協力していただきたい。

**[UR都市機構]**：浜甲団地、武庫川団地では既に色々連携している。今後も協力をお願いしたい。

**[兵庫県住宅供給公社]**：芦屋浜高層団地で連携している。地域活性化において行政ができることは限られ、大学や地域の協力が必要である。学生の情報収集力、発信力は貴重である。現在、生活環境学科や幼児教育学科が関わってくれているが、今後は食物栄養学科や看護学科も関わってほしい。

**[まちなね浜甲子園]**：浜甲子園団地では若い世代の入居も増えている。コミュニティスペース『HAMACO：LIVING』にスタッフ2名が常駐して運営しており、現在も武庫女とも連携し『浜甲カレッジ』で地域の学びニーズに答えている。学生のインターンも受け入れている。今後はより住民に良い環境創りに連携したい。

その後、グループに分かれ懇談会を行った。「『地域連携活動概要一覧』はわかりやすく、同様の活動を依頼したくなる。」「大学側も都合があり、全ての要望に応えられるわけではない。丸投げの要請は困る。行政や地域側も責任者を立て主体となってほしい。」「連携の成功例や失敗例の勉強会もよい。」「アクティブラーニングの場として団地の利用も検討可能。学生に対し団地行事等の参加を条件に賃料の低減もある。団地内に学生が住むと喜ばれる。」「団地でWeeklyマンションやシェアハウスの様な対応があれば喜ぶ学生は多い。」等の意見が出た。

また、当日ご都合により参加いただけなかった鳴尾連合自治会の長畑会長とは後日に面談し、以下の

ご意見をいただきました。

**長畑鳴尾連合自治会会長:**①『子どもの居場所問題』とともに『高齢者の居場所（特に男性）』問題も大きいと感じている。高齢者が自分で居場所を求めるような契機を作りたい。鳴尾にも空き家を利用した居場所となる“拠点”がほしい。本市では『空き家等地域活用支援事業補助金制度(公益的活動を行う際の空家リフォーム制度)』があるが、あまり地域(現場)では知られていない。『知らせる』『広報する』ことは大変重要なことである。②浜甲子園団地ではエリアマネジメントを担当する組織があり、活発な活動が行われている。同団地内だけでなく鳴尾地域にも広く声をかけていただき、鳴尾の住民も活動に参加できるようにならないか。③ららぽーと甲子園における『まちの保健室』の活動は、多くの参加者から「医者には話せない話ができる」「娘や孫と話している様で嬉しい」といった声を聞き、非常に良い取り組みだと思う。薬学部の『おクスリ相談会』は薬学部内で開催されているため、少し入りづらい。地域住民にとっては、『大学』は難しいことを教育・研究する場であるという認識があり、講義を受けること自体に構えてしまう。看護学部の活動と併せて、学外で実施していただくとありがたい。④かつては鳴尾連合自治会全体で運動会を実施していたが、担い手が高齢化し、『歩こう会』の様な内容に変わってきている。鳴尾連合自治会全体で何かの活動を実施したいと思うので、武庫川女子大学にも協力をお願いしたい。3月の第3土曜に『なるお文化ホール(西宮東高校ホール)』で実施する鳴尾の日のイベントにも、同じく協力をお願いしたい。⑤『防災』シンポジウムについては、興味を持てる課題である。住民を交えての活動は、導入に工夫をすることが必要である。『防災』上のテーマについて、自治会でアンケートに協力することは可能である。⑥兵庫県・西宮市・大学・自治会活動の重なる部分を『核』として、出来るところから活動を始めることができれば良い。とにかく鳴尾に住んで良かったという様な地域にしたい。⑦何か一つでも参加してよかったと思えるような記憶に残る活動ができればと思うので、ぜひ協力していただけたら嬉しい。

以上、其々の組織から当部署として示唆に富むご意見を頂いた。学内の他部署とも連携をとりながら、ぜひ今後の活動に活かしたい。

◆  
連絡先：本館 5 階 社会連携推進課 中村・萩田・鈴木  
内線：6211、6213 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp